

ゴミ収集パイプライン利用者の会 2024年3月の議事録

日時	2023年3月28日 19:30~20:30
場所	芦屋浜 センタービル3F 会議室
参加者	松原(アステムD棟)、友田(アステムC棟)、鎌松(浜風第4住宅)、大高木・藤田(浜風第5住宅)、末友(新浜町住宅)、三浦(ラ・ヴェール芦屋Ⅱ)、大北(ラ・ヴェール芦屋Ⅲ)、山口(アステムA・B棟)、藤本(芦屋浜第2住宅)、岩田(緑第一住宅)、下山(緑第二住宅)、大田・野村・井上(潮見南)、竹内(潮見第二住宅)、春木・淵田(南浜1街区)、浅田(海岸通自治会)、内藤(個人) 合計20名
議題	<ul style="list-style-type: none"> ① パイプラインの新しい運転による CO2 削減結果について ② パイプラインのトラブル情報(電話・メール等の問い合わせ) ③ ワーキング・グループの報告 ④ CO2 削減のための食品ロス・ワーショップ2
司会	<p>●ご連絡</p> <p>今日2つございまして、そろそろ管理組合や自治会等で役員が変わられる日だと思います。ですから、新役員の方の連絡先(名前とご住所とメールアドレス)をご連絡ください。また、今日は内藤様が個人で参加されましたので紹介いたします。</p>
委員長	<p>●パイプラインの新しい運転による CO2 削減結果について</p> <p>1月末に利用者の会で許可を得て始めた新しいパイプライン運転について報告がありました。特にプロア(ゴミを吸い取る機械)が最も電力を消費していることがあり、新しい運営方法を試した結果、電力消費量は期待ほどには減少せず、わずか3%の削減に留りました。</p> <p>最も効果があった運転方法は、朝の投入口で満杯のものだけを吸い取る方法で、これにより20%の削減が達成されましたが、通勤者の利便性に影響が出たため、この方法は中止されました。その後、細かい改善を試みましたが、大きな効果は得られていません。</p> <p>そこでTMES(委託会社)は電力量を削減するために新しいパイプラインのスケジュール変更を提案がされました。特に、陽光町の運転を見直しをおこないました。</p> <p>一方、日本政府のCO2削減に関する国際的な約束とその目標は2030年までのCO2削減を50%にするという目標がされており、私たちが協力できることを品ければなりません。その一つが、パイプライン運転の方法です。</p> <p>委員長から電力消費とCO2削減のための提案として①朝の全ての投入口からゴミを吸い取る現在の方法の見直し、②ゴミが少ない日(例:水曜日)は運転を停止する案、③特定の時間帯だけ運転する案などが提案されました。</p>

委員	<p>データに基づく検討の必要があり、効率改善のために、より詳細なデータに基づく検討が必要で、次回のワーキングでのさらなるデータ収集と分析が提案されました。</p>
結論(委員長)	<p>TMES の提案は保留とし、より具体的なデータを基に次のワーキング(4月)で改めて検討をする。利用者の利便性を損なわずに CO2 削減を実現するための方策、例えば大胆なパイプライン運転方法の変更など、皆さんからのアイデアを求めます。</p>
委員長	<p>●パイplineのトラブル情報(電話・メール等の問い合わせ)</p> <p>私たち利用者からのパイplineについての問い合わせ(トラブル情報)を 2023 年 10 月 1 日から 2024 年 3 月 10 日までの期間に、パイplineの投入口が開かないなどのトラブルが合計 21 件報告されました。これらのトラブルの大半は、投入口にゴミが詰まることや、誤ったゴミの入れ方によるものでした。特に、投入口の内部にごみが引っかかり投入口が開かないケースが 12 件あり、これが最も多いたラブルでした。</p> <p>トラブルの主な原因として、ゴミの入れ方が適切でないことです。具体的には、ダンボールが広がって詰まることや、結び目が内側に引っかかることが原因でした。対策として、ゴミの入れ方を改善し、結び目を下にして入れること、また、段ボールは絶対に投入口に入れないと大切です。</p> <p>更に、鍵の問題があり、トラブルの一部は、投入口の鍵が途中で抜かれてしまうことによるものでした。これを防ぐために、鍵を最後まで回してから抜くようお願いします。</p> <p>まとめると、再発防止のための具体策として、利用者に対してゴミの正しい捨て方を徹底すること、段ボールの適切な処理方法を指導すること、鍵の正しい使用方法を啓蒙することの 3 点です。投入口の問題は繰り返し発生しており、これを解決するためには利用者の協力が必要です。</p>
委員	<p>なお、投入口に関する問題を解決するための以前作成したシールの使用や、動画での啓蒙なども、視覚的な方法での対策も必要です。</p>
委員長	<p>●ワーキング・グループからの報告</p> <p>パイplineの投入口設置に関して、私有地ではなく公共の道路や公園に設置する場合、法律などの適用を受ける必要があり、特定の条件を満たした場合のみ設置が可能です。そこで、固定されていない設備であれば、特定の条項に基づき、許可を得ることができるとのことでした。</p> <p>また、台風などの自然災害時にパイplineの投入口がどのように影響を受け、対応していくのか、細かい具体的な設置は、それぞれの設置場所の検討と関わりあがる行政組織との話し合いが必要です。</p>

新しい投入口の設置には費用がかかりますが、それは芦屋市が負担することになります。設置後の管理については、それぞれの団体に委ねられ、維持管理をする必要がありますが、関係団体との協議が必要があります。

なお、12P の④ネットボックスは、設置可能なので○となりますので、修正をしてください。

●CO2削減のための食品ロス・ワークショップ2

会議では、食品ロスを減らすことによって CO2 削減に貢献する方法について説明をしました。

- まず、家庭での CO2 を見える化するための奈良県のホームページによる CO2 排出量の計算ツールの紹介したことを説明しました。
- 日本の食品ロスの約半分は家庭から出すごみ投棄です。
- 先月のワークショップでは、参加者は 2 つのグループに分け、食品ロス削減に向けたアイデアを出し合いました。その結果を14～15P にまとめています。
- そこで更なる食品ロスの撲滅対策として、ワークをおこなったアイディアを一つ選択して5W1H HouseI の WHAT に書いてください。記入するための事例として山口の実際の例を17P で紹介しています。それが終了したら、具体的な対策としてどのように取り組みのかの HOW を記入してください。
- 終了したら、お隣同士で取り組みをシェアしてください。
- これだけでは、実行することは途中で終わることがあります。実際に利用する上の難しさもありますので、そこで、5W1H HouseII に今後1ヵ月実行して学んだことを書いて、5W1H HouseI の修正を行います。これを繰り返すことで成長していきます。
- 食品ロス削減の実践の挑戦：参加者は食品ロス削減に向けた具体的なアクションを実践することの難しさや、それを乗り越えるための工夫について議論しました。また、これらの実践がどのように日々の生活や環境にポジティブな影響を与えるかについても考察しました。

今回のワークでは、食品ロス削減に向けた具体的なアクションと、それを定着させることがテーマでした。参加者は個人的な経験を共有し、実践における課題との解決策について意見交換を行いました。

以上